



# 茨城県の教育改革について



2026年4月2日 茨城県

# 茨城県教育大綱における主な教育改革

## 県立高校改革の取組

- ① 中高一貫教育校の設置促進
- ② 県立高校への医学コースの設置
- ③ 「公募校長」による学校経営改革

※茨城県教育大綱

総合教育会議における知事と教育委員会との協議を経て策定

## より良い魅力的な教育環境を求める声



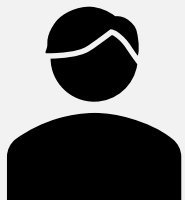
自分の可能性に挑戦できる環境で学びたい。



中高一貫教育校を自宅から通える範囲につくってほしい。



医師の地域偏在問題を改善するために医療を担う人財の育成をしてほしい。



自由な発想で、魅力あふれる学校をつくってほしい。

**「選ばれる地域」となるための県立高校改革が必要**

# 中高一貫教育校の設置促進（生徒の夢や希望を叶える）

## 課題

- 様々な分野で活躍する人財や、トップレベル人財の育成が急務
- 中高一貫教育へのニーズへの対応  
2013年度までに開校した中高一貫教育校3校の募集定員360人に対して、志願者が約1,200人

## 対応

- 6年間の計画的・継続的な教育活動を通して、興味関心のあることを追究し、自分だけの強みを伸長
- 少人数学習やチーム・ティーチングにより、数学や英語で個に応じた学習を推進

### <国際教育>

- ・ALTを複数配置し、実践的な英語力を向上

### <科学教育>

- ・大学や研究機関と連携、論理的思考力を育成

### <探究活動>

- ・地元や企業と連携し、実社会の課題に対し、他者と協働して解決する力を育成

## 成果

- 志願者が約1,200人⇒約2,300人へ倍増
- 全国レベルのコンテストに続々入賞

	学校名	主な取組と成果
国際	水戸一附中 土浦一附中	NGGLに参加、英語ディベート、留学生との交流 ⇒ワールド・スカルーズ・カップ世界決勝大会進出
	日立一附中 並木中等	大学、研究所と連携したセミナー ⇒科学の甲子園ジュニア全国優勝
科学	竜ヶ崎一高	企業と連携、プログラミング技術を学習 ⇒ロボットコンテスト世界大会日本代表
探究	並木中等	分野ごとのゼミ形式の個人研究 (竹の保水性を利用しヒートアイランド対策) ⇒国際学生科学技術フェア日本代表



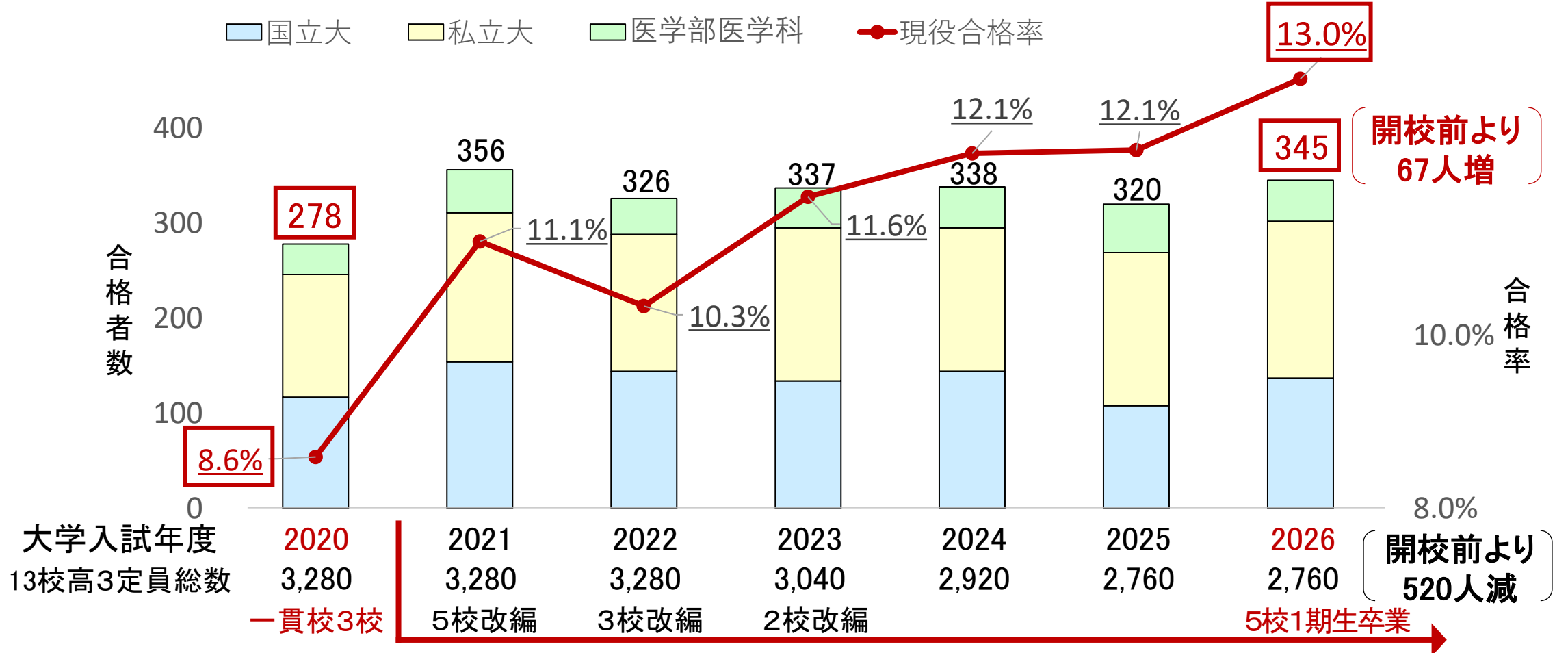
# 中高一貫教育校の設置促進（高いレベルでの進路実現）

## 中高一貫教育校13校の難関大学への現役合格者

○13校全体で、定員総数が減る中、**難関大学への現役合格者数(345人)、合格率(13.0%)**が上昇

※難関大学:[国立]東京、京都、北海道、東北、名古屋、大阪、九州、[私立]早稲田、慶応義塾、[医学部医学科]国公立・私立

○**海外大学への合格者が増加** 2026年6名:ブリティッシュコロンビア大(カナダ)、インティ国際大(マレーシア) など



# 県立高校等への医学コースの設置

## 課題

- 人口当たりの医師数、医師の地域偏在問題の改善に向け茨城の医療を担う人材育成が必要

## 対策

- 医師を志す人材を育成するため**医学部志望の生徒が2年次から共に学ぶ医学コースを設置**  
(2019年度入学生から)

設置校	主な取組
日立一高 水戸一高 土浦一高 並木中等 古河中等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現役医師による講演会</li> <li>・現役医師や医学生との対談</li> <li>・生化学の実験</li> <li>・予備校による小論文、面接指導</li> <li>・数学、理科、英語の習熟度別授業</li> </ul>

## 成果

- 国公立医学部医学科現役合格者数(医学コース設置校)

→ **医学コース設置前と比べ2倍以上に増加**



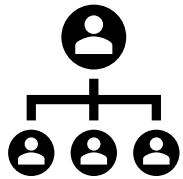
# “公募校長” による学校経営改革

## 新たな発想による「魅力ある学校」へ

・生徒主体の活動強化 ・スピード感・柔軟性・自由度の追求 ・外部人材のダイナミックな活用

2025年度 9名の校長・1名の副校長が活躍

### 【組織改革】既存部署の抜本的・横断的な見直し



- 有志職員によるDX推進部の立ち上げ  
→ 教員自ら新しい取組に挑戦
- 縦割り組織からプロジェクト中心型へ  
→ 業務の効率と改革の推進力向上

### 【探究活動】地元や企業と連携・全国へ発信



- 教育ベンチャーと協働  
→ 生徒の有用感・教員の自主性強化

### 【働き方改革】職場環境の改善・時間外の縮減



- 職員室フリーアドレス化・定時退勤日  
→ 教員間交流の深化・意識改革

### 主な取組と成果

竜ヶ崎一高 ・附属中	校内業務体制を一新・直轄部署で改革推進 ロボット世界大会 2年連続 日本代表 ⇒ デジタル教育・AIの旗艦校として注目
水戸一高 ・附属中	著名人による講話 多数実施・海外研修刷新 ⇒ 外部からの刺激好評・研修生倍増
土浦一高 ・附属中	SDGs探究プログラムを作成 ⇒ 伴走企業を交えたフォーラムを実施
水海道一高 ・附属中	「海高式探究プログラム」開発・継続的に実施 ⇒ 生徒は自分に必要なスキルを選んで探究 ⇒ 生徒と教員が主体的に自走する学校へ改革
下妻一高 ・附属中	アントレプレナーシップ教育が全国的に注目 ⇒ 生徒の主体性を育む取組・教員研修多数 ⇒ 「教員が変われば学校が変わる」
IT未来高	ITセミナー12回実施・全国コンテスト出場 ⇒ 大阪関西万博出展・大学進学者増

今後大きく変化する社会の中で、これまでと同じ考え方では  
解決が難しいことに対しても、果敢に挑戦していく人財を育成  
するため、茨城県 では、  
これからも 教育改革 に  
取り組んでまいります。

